

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分ご理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切です。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	210人	社会	210人	数学	209人
	理科	208人	英語	209人		

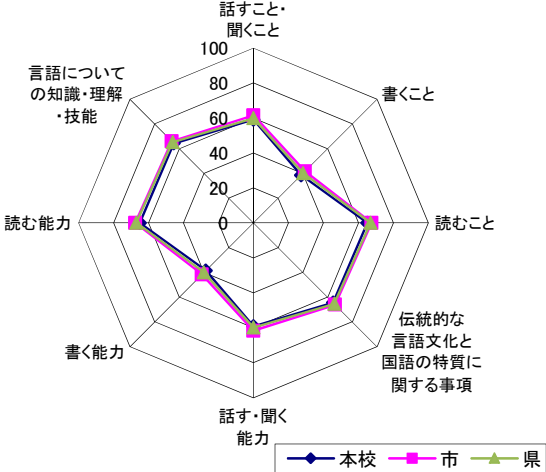
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率(29年度)

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	59.2	61.6	59.9
	書くこと	38.6	41.7	40.1
	読むこと	65.1	67.6	67.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.4	66.1	65.4
観点	話す・聞く能力	59.2	61.6	59.9
	書く能力	38.6	41.7	40.1
	読む能力	65.1	67.6	67.0
	言語についての知識・理解・技能	64.4	66.1	65.4



★指導の工夫と改善

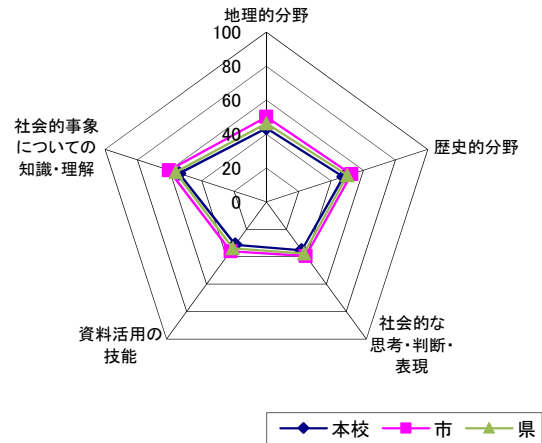
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる」設問では、正答率91.0%であった。 ●「話し方・聞き方の理解」では、正答率が59.2%で県との差は-0.7ポイントだった。特に「事実と意見のとの関係に注意して話を構成する」設問の正答率は県との差+2.3ポイントだったものの14.8%と低かった。	・全校で取り組んでいる「1分間スピーチ」や、「言語活動を取り入れた授業展開」が徐々に効果を上げている。 ・国語科では「聞き取りテスト」を定期的実施し、「聞くこと」の技能向上にも取り組んでいる。 ・これらの取組を継続していくとともに、国語科を中心に「聞き方・話し方」の指導に力を入れていく。
書くこと	○「考えの根拠を明確にして鑑賞文を書く」設問の正答率は64.3%で、県との差は+1.2ポイントであった。 ●「書くこと」の領域では、正答率が36.8%で県との差は-1.5ポイントだった。成績上位者25%の正答率も57.3%であり、文章表現の向上は本校の課題である。	・「言語活動を取り入れた授業」の中で「理由をあげて説明させる」活動に力を入れてきた。うまく説明できない生徒も多い状況だが、今後も粘り強く取組を続ける。 ・文章表現に関しては苦手意識をもつ生徒も多く、興味のもてる課題を取り入れた短作文を数多く書かせる機会を作り、文章表現力の向上に努める。
読むこと	○「描写を踏まえて登場人物の心情を捉える」設問の正答率は83.8%であった。「文学作品の内容理解」に関しては県との差は-0.8ポイントにとどまり、概ね良好である。 ●「説明文の内容理解」に関する問題で、「内容を整理し、要旨を捉える」設問の正答率は48.1%（県との差-6.8ポイント）で、課題である。	・朝の読書活動や図書室の活動が効果を上げ、文学的文章の読み取りに自信をもって取り組んでいるので、今後も継続していく。 ・説明文の読み取りに課題がある。そのため、段落相互の関係を捉えたり、要旨を簡潔にまとめたりする活動を多く取り入れた授業展開を進めていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「文節の分け方」を問う設問の正答率は83.3%（県との差+1.5ポイント）で、文法の理解は良好であった。 ●漢字の音を書かせる設問の正答率が42.9%（県との差-6.9ポイント）であった。また、表現技法（擬人法）を問う設問の正答率が78.1%（県との差-5.7ポイント）であった。	・漢字の読み書きは授業の初めに毎時間テストを行うなど、強化に努めている。しかし、実際に文章を記述する際に、漢字を使わない傾向がみられる。国語以外の教科とも連携し、漢字を使う機会を増やしていく。 ・表現技法の習得については、様々な文章の中で使われているものを紹介し学んだ技法を使って表現させることで定着を図る。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率(29年度)

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	43.4	50.0	46.2
	歴史的分野	47.7	52.6	50.2
	社会的な思考・判断・表現	35.3	39.4	37.6
	資料活用 of 技能	31.2	35.9	33.8
	社会的な事象についての知識・理解	54.1	60.4	56.3



★指導の工夫と改善

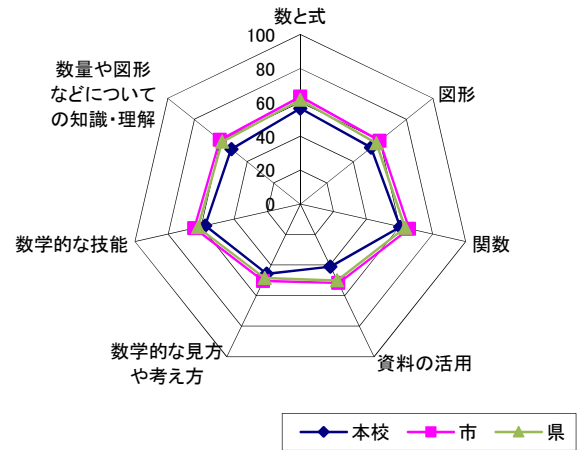
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○世界の諸地域(アジア)では、県平均とほぼ同じである。 ○熱帯の地域に住む人々の生活様式については、県平均を3.3ポイント上回っている。 ●方位を読み取る問題では正答率が県平均より13.5ポイント下回っており、世界地図の特色や読み取りが不十分であることが分かる。 ●オーストラリア中央部の雨温図を読み取る問題が県平均より5.6ポイント下回っている。	・全体的に地理的分野は県平均、市の平均を下回る項目が多い。特に資料活用 of 技能表現の問題を苦手としている傾向がある。よって、今後は地図やグラフの読み取りを多く取り入れ、生徒達にも意識して取り組むように指導していく。また、グラフや資料の読み取りは、グループ学習によって読み取りの多様性やものの見方を養っていく。 ・基礎基本となる知識の定着も同時に図っていくよう、授業の導入で行う小テストを、今後も引き続き実施していく。
歴史的分野	○象形文字を用いた古代文明の名称を答える問題では県平均を6.7ポイント上回っている。 ○税負担から逃れるためにとった方法を資料から考察する問題では県平均を9.4ポイント、市平均を7.5ポイント上回っている。 ●天智天皇の後継ぎをめぐる争いの名称を答える問題は県平均を14.5ポイント下回っている。 ●武士で初めて太政大臣になった人物の名称を答える問題では、県平均を8.5ポイント下回っている。	・縄文から平安までの古代の分野は理解しているが、鎌倉から室町までの理解が定着していないことが分かる。また、名称等の基礎の部分でのポイントが低く、再度基礎基本の徹底を図る必要があることが分かる。 ・歴史分野が好きな生徒は多いため、資料を使って考察したり、資料から時代の様子を想像させたりなど、考える学習を中心に生徒の興味関心を高めて基礎の定着を図っていく。 ・また、政治や文化等については時代の流れを追って変化していく歴史のものの見方を養っていく。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率(29年度)

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	56.4	63.3	61.5
	図形	53.4	59.8	57.4
	関数	60.4	65.9	63.4
	資料の活用	41.0	51.7	50.1
観点	数学的な見方や考え方	45.7	50.4	48.5
	数学的な技能	57.6	64.1	61.9
	数量や図形などについての知識・理解	52.0	60.6	58.9



★指導の工夫と改善

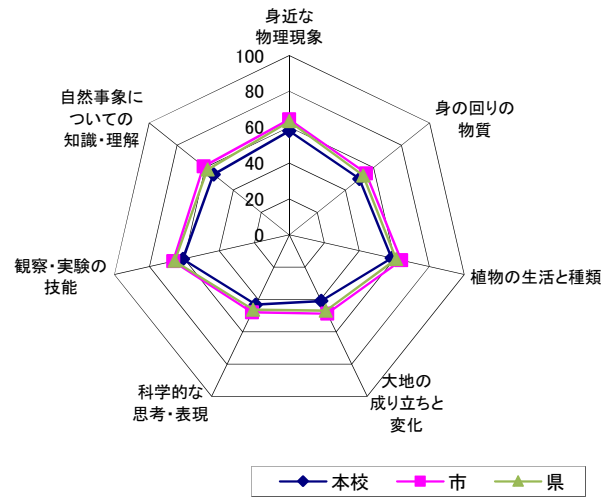
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○一次方程式を解く問題では、A～C層の正答率は市、県を上回っている。 ●県と比べ5.1ポイント、市と比べ6.1ポイント正答率が下回っている。特に自然数を選ぶ、一次式の計算問題での正答率が低い。	・自然数の定義や、一次式の項をまとめたり、移項して方程式を解いたりすることについての定着がされていない部分がある。授業内で用語についての復習、計算の反復練習を行う。 ・定着状況に差が見られるので、個別での支援を強化していく。
図形	○作図の活用の問題については、県よりも正答率が3.5ポイント上回っている。 ●円柱の展開図で、側面の横の長さを求める問題の正答率が市、県と比べ大幅に下回っている。	・図形について面積の求め方が定着していない生徒が多く見られる。全体で復習する機会を設け定着を図る。 ・D層の無回答率が目立つため、生徒の実態を把握し、それぞれの生徒への支援を行う。
関数	○比例の関係について、 y を x の式で表す問題では、県の正答率とほぼ同値である。また、反比例の表を埋める問題では県の正答率を上回っている。 ●無回答率が高い。	・比例のグラフを書くことやグラフの読み取りは、2年時の一次関数の単元でも必要となるものである。授業内で、既習内容の復習をし、理解できるよう支援する。 ・記述式の設問について無解答率が増加する傾向にあるので、自分の言葉で書かせる練習を設けていく。
資料の活用	○ヒストグラムから中央値が含まれる階級を答える問題では、県との正答率の差は小さい。 ●度数分布表の見方、相対度数などの用語、資料の活用の仕方についても、正答率が低くなっている。	・資料の活用の単元では、いくつかの重要な用語がでるので、その意味を理解させるとともに問題演習を繰り返すことでの定着を図る ・基礎基本から全体で復習する機会を設け、定着を図り、個別での支援をしていく。 ・資料から傾向を読み取って判断するという一連のプロセスについて学ばせる。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率(29年度)

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	57.9	64.3	63.2
	身の回りの物質	50.0	54.8	52.8
	植物の生活と種類	58.5	64.0	61.1
	大地の成り立ちと変化	41.0	48.8	47.0
観点	科学的な思考・表現	43.2	48.0	46.4
	観察・実験の技能	60.9	66.4	65.6
	自然事象についての知識・理解	54.0	61.1	58.3



★指導の工夫と改善

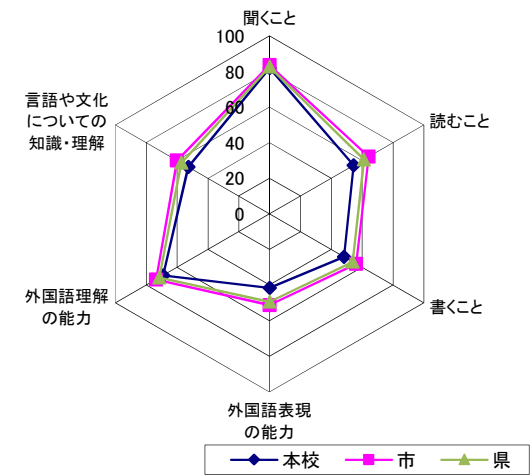
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○「凸レンズに入る2本の光の進み方」の問題に対して、県の平均より4ポイント以上上回っている。 ●「鏡で反射した光の進む道筋の記録」や「光の反射の規則性から、鏡に映る範囲を推測する」の問題に対して、県の平均よりも5ポイント以上下回っている。 ●光の反射の規則性についての理解に課題が見られる。	・光の反射の規則性では、例えば光の反射の実験のときに、班で実験を行った後個人でまとめ、次に班内で発表させて確認し、さらにクラス全体で発表するなど考える機会を多くする。 ・まとめが終わった後に鏡と数個の物体を準備し、物体をいろいろな場所におき、実際に目で確認させることにより「光の反射の規則性」の定着を図る。
身の回りの物質	○「水が氷に変化したときの粒子のようすがわかる」や「グラフから析出する固体の質量を選び、理由を説明する」問題では、県の平均より1ポイント以上上回っている。 ●「ガスバーナーの適切な操作方法が分かる」や「水溶液中の溶質の様子を表す粒子のモデルを推測する」問題に対して、県の平均より7ポイント以上下回っている。	・ガスバーナーの使い方の指導では、今年度と同様にパフォーマンステストを行うのと同時に、ガスや空気の通り道を「ガスバーナーの分解図」等を利用してガスバーナーを操作しているときに理解させる。 ・水溶液の学習では、溶解度曲線の読み取りを繰り返し行うとともに、溶質の溶けている様子をモデルで表すときに具体的な溶質の質量を示しながら確認させ、モデルと質量の関係を関連づける。
植物の生活と種類	○「葉が重なり合わないようについている理由を説明する」や「適切でないスケッチの修正すべき点がある」問題に対して、県の平均より4ポイント以上上回っている。 ●「植物の蒸散の実験で水面に油をたらす理由を説明する」や「スケッチを基に植物を分類し、その理由を説明する」問題に対して、県の平均より7ポイント以上下回っている。自分の考えを表現することに課題が見られる。	・たとえば、植物の蒸散の実験については、実際に授業で実験を行う。葉にワセリンを塗ったり水面に油をたらしたりすることで、実験結果から「葉にワセリンを塗る理由」や「水面に油をたらす理由」を考えさせ、ワークシートに書かせ、思考力、表現力を高める。
大地の成り立ちと変化	○「観察の結果や表を基に雲仙普賢岳の形を推測する」問題に対して、県の平均に近い結果になっている。 ●「震度やマグニチュードが分かる」や「堆積岩の特徴が分かる」問題に対して、県平均より9ポイント以上下回っている。地震や岩石に関する知識や理解力に課題が見られる。	・震度やマグニチュードでは、地震の発生のメカニズムや伝わり方を図や映像を通して理解させ、「震源に関すること」や「揺れている地点に関すること」を分けて考えさせる。 ・岩石については、岩石のでき方やその特徴を岩石標本や映像で確認しながら知識の定着を図る。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率(29年度)

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	82.0	83.6	82.6
	読むこと	54.5	64.2	61.2
	書くこと	48.3	56.2	53.8
観点	外国語表現の能力	41.6	51.2	49.4
	外国語理解の能力	69.0	73.7	71.5
	言語や文化についての知識・理解	52.7	60.1	57.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○単文の英語を聞いて、イラストに合う動作や日付を選ぶ問題では、正答率が高い。 ●D層の生徒ではHow old～?や When～?を聞いて正答を選ぶ力が定着していない。 ●対話文を聞いて正しい内容を選ぶ問題の正答率は、イラストを選ぶ形式であっても、県・市の平均を下回っている。	・単元ごとのリスニングテストを継続していく。 ・生徒と教師や生徒同士のコミュニケーション活動を継続していく。 ・ALTを活用して、興味をもって対話ができるように言語活動を工夫していく。
読むこと	○挿絵等を見て文章の内容を読み取る問題においては、A～C群の生徒はおおむね理解している。 ●長文読解では、指示語が示すものを読み取ったり、要点をとらえながら読み取ったりする問題の正答率が低い。	・指示語が示すものを確認するなど、前後の文章のつながりを意識させながら読ませる活動を、今後も継続していく。 ・本文の概要をまとめる活動を取り入れる。 ・個人の活動になりがちなので、ペアで1文ごとに読みあうなどの活動を継続していく。
書くこと	○一般動詞の過去の疑問文を正しい語順で書く問題は、A～C群の生徒は理解できている。 ●対話文の内容にあてはまる疑問文を書いたり、内容につながりがある英文を書いたりする問題の正答率が低い。	・基本英単語等の小テストを継続して実施する。 ・5文程度で紹介文を書いたり、スキットを作らせたりする活動を継続していく。 ・例文の一部を置きかえるなど、下位の生徒にも取り組みやすいやり方を工夫していく。 ・書いたものを演じたり発表したりすることで定着を図る。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年 生徒質問紙調査(29年度)

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【学習に関して】

○学習についての質問の中で肯定的割合が宇都宮市や栃木県に比べて数字が高くなっているのが「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよくやっている」、「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」、などの質問である。これらの結果から学習に対する意識をしっかりともち、授業に臨み、指導者も目標掲げて授業を行っていることがうかがえる。今後、基礎基本を定着させることによってさらに力を付けていく。

○「好きな教科で国語」、「将来のために大切な教科として理科」を宇都宮市や栃木県に比べて大きく上回っている。また、どの教科も将来に対して大切との認識が高い。生徒の気持ちを大切に今後も教師が指導力を高めていく必要があると考える。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」の項目では、宇都宮市や県よりもポイントがやや高い。授業形態で、少人数学習を行い発表の機会を設けるとともに、学級でも『1分間スピーチ』を実施している成果である。

●「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」、「家で学校の授業の復習をしている」、「不思議に思うことは、分かるまで調べたい」などの質問で、肯定的割合が宇都宮市や栃木県に比べて下回っている。学習習慣を身に付ける手立てを、家庭と連携し取り組んでいく。

●「嫌いな教科で、社会・美術・技術家庭・英語」があがっている。また、「次の教科の授業の内容はよくわかりますか」という質問では社会が宇都宮市や、栃木県を大きく下回っている。教科部会、授業公開を通して問題点を洗い出し、指導者の授業力を向上させる。

【生活に関して】

○生活についての質問の中で、肯定的割合が宇都宮市や栃木県に比べて数字が上回っているのが、「早寝、早起きを心がけている」である。また、「毎日食事を食べている」の質問でも、わずかながら市や県を上回っている。好き嫌いをせずに、規則正しく食生活を行うことは健やかな身体を作ることからも大切である。給食での指導だけでなく、家庭の協力を得ながら、規則正しい生活を身に付けさせる指導を継続していく。

●「家の人と学校のできごとについて話している」、「家の人と将来のことについて話すことがある」、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」、「自分は家族の大切な一員だと思う」、「家の人と学習について話している」の質問に対し肯定的割合が宇都宮市や栃木県より低い。一人親家庭や、共稼ぎ家庭の増加により、なかなか家族のコミュニケーションをとることができない状況と思われる。学校から保護者会で情報を提供したり、家庭でのコミュニケーションの重要性を説いたりするとともに、三者懇談などで学習の話題や生徒の良い点を提供していく。

●ゲームをする時間については、宇都宮市や栃木県と比べて4時間以上が多い。家庭での生活について保護者会や、学年通信を通しスマートフォンやインターネットなどの利用の仕方を指導するとともに、家庭での会話を増やすよう呼び掛けていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ、振り返りの徹底	授業の最初に目当てを明確に指示し、板書させ、さらに授業の最後には、振り返りカードを利用し、ねらいの達成を振り返らせている。	「授業では学習の目標とまとめを書いている」、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の項目が県や市の平均よりも上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「自分は勉強がよくできるほうだ」の肯定的ポイントが県や市よりも低い。	基礎学力の定着を図る。	1週間に1日、帰りの学活でプリント学習を行い、基礎学力の定着を図る。